

活用事例⑦

富田林市立大伴小学校
磯口 多恵子

■活動した学年：3年・4年・5年

■主障害名：LD

■各教科等名：国語

■アセスメント名：視覚認知が強い

■学習形態：支援学級—個別

■本の名前：

『おすもうシリーズ』

お相撲の始まりから、ルール、強くなる方法、力士の1日、お相撲あそびなどを紹介している。

『パパンがパン』

いろいろなパンがクイズ形式で登場。食べたくなる本。「パパンがパン」という言葉のリズムも楽しい。

『かさじぞう』

日本の昔話。優しいおじいさんに恩返しをするお地蔵さんたちのはなし。ほっこりできる本。

■対象となる児童・生徒の実態

- ・読み書きに対して、非常に苦手意識をもっている。
- ・自分から、文字や文章や本を読んだりするのが苦手。マルチメディアDAISY図書の一覧表ではなかなか本を探ることができなかったが、本の

表紙写真のポスターから読みたい本を見つけ出すことができるようになってきた。

■学習のねらい

- ・自分で見たい本、読みたい本、聞きたい本を選ぶことができる。
- ・最後まで、聞いたり読んだりすることができる。

■使用した道具・機材

ノートパソコン

■実際の様子について

- ・事前提示の仕方—興味のある相撲のカレンダーやわいわい文庫の一覧表を見せマルチメディアDAISY図書に興味をもたせる。
- ・実際の様子—カレンダーの中から好きなお相撲さんを選び、一覧表の中から『おすもうシリーズ』を選ぶことができた。また、一覧表の中から『パパンがパン』『かさじぞう』知ってる。これも面白そう。」と選んだ。
- ・事後評価—好きなパソコンで写真入りの本を読んでもらい、文字がハイライトされることにより、どこをどう読むのかがわかり、自分でも声を

出して一緒に読むことができた。また自分から本を探すこともでき、最後まで読むことができた。「おもしろいね。」と感想も言えた。



■本に対する情報提供など

- ・読みに苦手意識があった児童であるが、マルチメディアDAISY図書を活

用することで、音声だけでなく文字の読み方、言葉のつながり、文章の区切りなどが、ハイライトされることにより、「どう読むのか、今どこを読んでいるのか」がよくわかった。また、何度も繰り返し聞くこともできて、自分でも読んでみようとして進んで『おすもうシリーズ』『パパンがパン』『かさじぞう』のわいわい文庫の本を選んで読み始め、読みへの苦手意識も軽減され、興味が持てるようになった。

- ・初めて知るような相撲の知識も載っていて、物知り博士になった気分も味わうことができた。

